

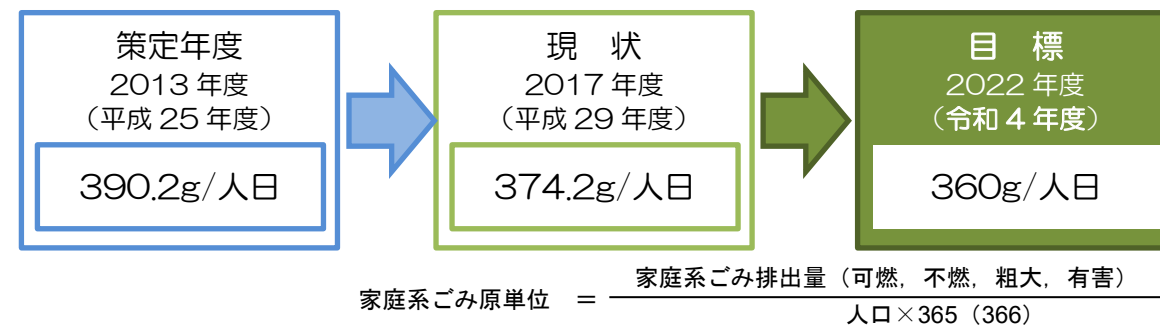
## 計画目標（数値目標）の設定について

「計画目標」とは、計画に定めた様々な取組を進めていくうえで重要指標となる総合的な数値目標です。

### 1. 現行計画の数値目標

#### 数値目標1 家庭系ごみ原単位の目標値

《家庭系ごみ原単位》



#### 数値目標2 家庭系ごみ資源化率、総資源化率の目標値

《家庭系ごみ資源化率》



《総資源化率》



$$\text{家庭系ごみ資源化率} = \frac{\text{資源物収集量} + \text{集団回収量}}{\text{ごみ総排出量} - \text{事業系ごみ量}}$$

$$\text{総資源化率} = \frac{\text{資源物収集量} + \text{中間処理施設資源化量} + \text{集団回収量}}{\text{ごみ総排出量}}$$

#### 数値目標3 最終処分量の目標値



### 2. 新たな計画目標（数値目標）設定の考え方（案）

#### 【検討課題】

- 事業系ごみを含むごみ量全体の目標を立てるべきではないか（例えばコロナ禍で外食が減り事業系ごみが減少し家庭ごみが増えたようにトレードオフの関係もある）
- 現行計画の資源化率目標は低下しつつも水準を維持することを目指しているが、リサイクルの量よりも質（例えばCO<sub>2</sub>の削減効果）に注目すべきではないか。
- 今後も継続する焼却灰のエコセメント化による最終処分量ゼロについて、あらためて計画目標とするべきか。

#### 【計画目標の設定（案）】

※ 本計画の最終年度（令和12年度）における計画目標の設定について、以下に案を示します。

- 計画目標案1 家庭系ごみ原単位（1人1日あたりの家庭ごみ排出量）（g/人日）  
→人口に左右されない排出抑制の指標として1人1日あたりの量を用いる
- 計画目標案2 総ごみ排出原単位（資源物・事業系可燃ごみを含む）  
→資源物や事業系ごみを含めた不用物の排出量全体を抑制する観点から削減目標を立てる
- 計画目標案3 総資源化率  
→ごみ分別徹底の観点から資源化率をチェックしていく
- 計画目標案4 CO<sub>2</sub>削減量（t/年）  
→ごみ組成分析調査から、焼却処理される可燃ごみ中のプラスチック量を推定し、焼却処理に伴うCO<sub>2</sub>発生量をチェックしていく
- 計画目標案5 最終処分量（t/年）  
→最終処分量ゼロを維持・継続していく

#### 【備考】

※ 現行計画と同様、各計画項目には取組の進み具合をチェックするための個別の指標を提示します。

（例）

- 行政収集以外の資源物収集量
- 事業系ごみ持込量
- プラスチック類の資源化量
- パートナシップ数（集団回収登録団体、拠点回収等協力企業、リサイクル協力店、促進員など）
- 可燃ごみへの資源混入割合（組成分析調査による）

など